

福田湯田遺跡 現地公開資料

【日時】 令和6年10月24日（木）・25日（金）
10：00～15：00

【場所】 津山市福田
福田湯田遺跡発掘調査現場

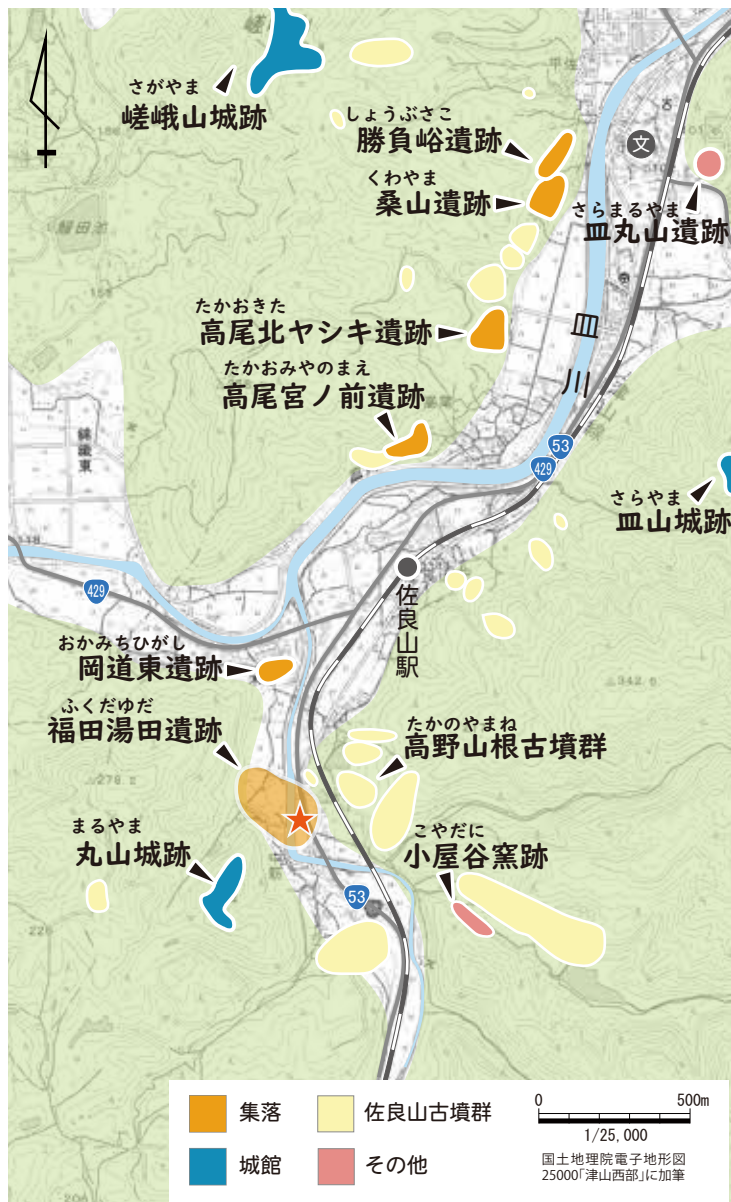
【主催】 岡山県古代吉備文化財センター

はじめに

岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、福田湯田遺跡の発掘調査を行っています。

福田湯田遺跡は、吉井川支流の皿川の両岸に広がる遺跡です。遺跡の東側の丘陵には、佐良山古墳群最大の前方後円墳である高野山根2号墳（残存長37m、6世紀後葉か）を始めとした多くの古墳があります。

福田湯田遺跡の調査では、これらの古墳がつくられた頃の旧皿川の流路（水が流れた跡）が複数確認されました。流路からは、水辺の祭祀に用いられたと考えられる土器がいくつか見つかりました。流路は古墳時代が終わる頃には埋没し、中世になると掘立柱建物（穴を掘って柱を立てた建物）がつけられます。



調査地周辺の主な遺跡分布図 (1/25,000)

調査成果 [中世]

今回の調査では中世（鎌倉・室町時代）と考えられる掘立柱建物1棟が見つかりました（右、写真）。他にも溝や柱穴があるので、中世には人が生活できるような場所になったことが窺えます。また、遺跡の南西に位置する丸山城跡との関わりも想定できます。



No.5 掘立柱建物

調査成果 [古墳時代]

古墳時代では、No.3 流路（幅 1m、深さ 30cm 程度）から、特徴的な出土状況の土器が複数見つかりました。時期はいずれも古墳時代後期と考えられます。

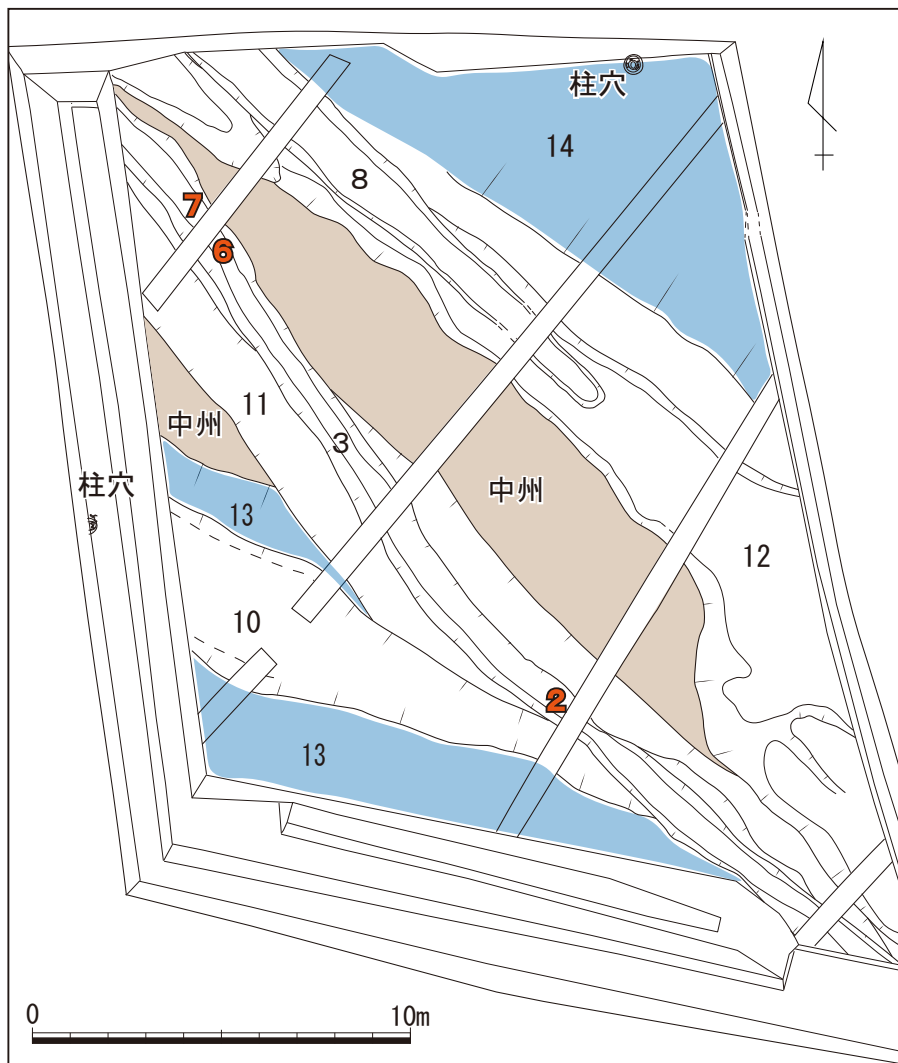


No.6 土器出土地点

No.6 では手づくね土器（手でこねてつくられた土器）が 1 点出土しました。壺のミニチュア版で高さは約 8.0cm、朱色に塗られていることから、実用ではなくお祭りやお祈りのための土器だといえます。

また No.2 と No.7 では、流路の底^{すえき}と^{はじき}で須恵器と土師器がセットで見つかりました。須恵器とは窯で焼いた硬い土器、土師器とは、野焼きで焼いたやわらかい土器を指します。

特に、No.2 の土師器は、流路の底に上下逆さまで置くという特徴的な出土状況をしています。これは、水辺で行われた祭祀との関連も窺われ、興味深い事例です。



1 区（調査地北端）古墳時代全体図（1/200）



調査地周辺 時代ごとの主なできごと

時代	おもなできごと	佐良山地区周辺のおもなできごと (太字は佐良山地区の遺跡)
5,000年前	縄文 土器が使われ始める	高尾宮ノ前遺跡 縄文 周辺で人々が暮らす  異形部分磨製石器 祭祀用の石器とされる
2,000年前	弥生 水田稲作が伝わる 鉄器が使われ始める	勝負峪遺跡で土坑墓群が つくられる 沼遺跡で集落が営まれる 皿丸山遺跡で特殊器台の祭祀が行われる ▲特殊器台 津山市所蔵 
1,500年前	古墳 大きな古墳が造られ始める 鉄をつくり始める	たかのやまね 高野山根古墳群 古墳 佐良山古墳群で多くの古墳が造られる 高尾北ヤシキ遺跡で集落が営まれる 小屋谷窯跡で須恵器が生産される ▲竪穴式石室 (高尾宮ノ前遺跡) 
710	奈良 平城京へ都を遷す	美作国府跡 美作国分寺・国分尼寺が 建立される ▲古代の須恵器 
713	美作国が置かれる	
794	平安 平安京へ都を遷す	丸鞆 ▲丸鞆 役人が身につけた ベルトの飾り 
1185	鎌倉 鎌倉幕府の成立 院庄に美作守護所が 置かれる	院庄館跡 ▲中世 
1338	室町 (南北朝) 室町幕府の成立 山名氏と赤松氏の戦い	神楽尾城跡、神南備山城跡 高尾北ヤシキ遺跡で鏡像が埋納される 高尾宮ノ前遺跡で屋敷地が営まれる 岡道東遺跡で集落が営まれる ▲中世の掘立柱建物群 
1441	嘉吉の乱	
1467	応仁の乱	丸山城跡 まるやま 丸山城跡 
500年前	戦国時代の始まり 尼子氏・毛利氏・ 宇喜多氏の戦い	院庄構城跡 津山城築城 煙硝蔵が置かれる 佐良山碑 ▲佐良山碑 平安時代の大神祭で詠まれた 「くめのさら山」の歌が刻まれる 碑で、佐良山が都にも知られた 地であったことがうかがえる 
1590	安土桃山 豊臣秀吉が全国統一 を果たす	
1603	近世 江戸 江戸幕府の成立 津山藩が置かれる	▲近世
400年前		
近代	明治 1868 明治維新	